165 号
Nov.
2025 年

１ドルPRESS

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。秋も深まり、朝晩が冷え込んできました。みなとみらいも冬・クリスマスモードで華やかに彩られています。ぜひお帰りの際には、クイーンズスクエア横浜クイーンモール2階の可愛いツリーもご覧ください。
この１ドル PRESS は、当館のホールオルガニスト・インターン生とホールスタッフが、より多くの方にオルガンへ興味を持っていただきたいという想いで発信しています。ご覧いただけますと幸いです。



本日の出演者 野田美香（のだみか）さんへインタビュー

■本日のコンサートで注目してほしいポイントを教えてください！
今回のプログラムは、横浜みなとみらいホールのパイプオルガン“ルーシー”の多彩な響きをお聴きいただきたいという思いで選曲しました。オルガニストにとって、それぞれの作品に合わせたストップ（音色）を組み合わせるレジストレーションの作業は、とても重要ですし、楽しい時間でもあります。ルーシーが備える 62 種類ものストップ（音色）が、どんな音を奏でるか、ご注目いただければと思います。

■現在のマイブームは何ですか？
マイブームといえるほどのものがないのですが、ドライブや読書は好きです。最近でいうと、三島由紀夫と佐江衆一の本を改めて読んでいます。自分では想像もつかないような人生や考え方を知ることが楽しいです。また、相撲も時々見ます。

■ご来場のお客様へメッセージをお願いします。
横浜みなとみらいホール、そしてオルガン・ルーシーは、私にとって多くの学びを与えてくれた特別な存在です。本日は、ご来場いただいた皆様へ、そしてルーシーへ、心からの感謝を込めて演奏いたします。



― インターンシップ21期 尾崎麻衣子の『ドイツ オルガン紀行』Vol. 3 ―

今回は、南ドイツのオクセンハウゼンにある修道院教会（Die Klosterkirche St. Georg von Ochsenhausen）のオルガンをご紹介します。47 ストップと4つの手鍵盤とペダルを持つこのオルガンは、1728～1734 年頃に J. ガープラー Joseph Gabler（1700-1771）によって製作され、1751～1753（あるいは 1755）年頃に彼自身によって更に拡張されました。バロック様式の教会は白とピンクを基調とした内装でとても明るく、天井には美しいフレスコ画が描かれています。オルガンは大理石調のケースで金色の装飾が施され、楽器を手にしたたくさんの天使の彫刻が見守っています。演奏台は祭壇の方を向いているため、美しい聖堂内を見渡しながら演奏でき、この上ない解放感を味わえます。とても温かみのある繊細で柔らかな音色が印象的でした。手鍵盤を連結すると鍵盤がものすごく重くなり、腰でしっかり支えて体の全重量を腕全体に乗せて弾かないと鍵盤が下ろせない程でしたので、少し弾くだけでも汗だくになりました。オクセンハウゼンの南にあるヴァインガルテンという街にも、62 ストップを備えたガープラー最大の有名なオルガンがあります。そして更に 30km ほど南に行くと、観光地としても人気のあるボーデン湖にたどり着きます。南ドイツには他にも素晴らしいオルガンがありますので、緑豊かで長閑な美しい景色を楽しみながら、ぜひオルガンを巡ってみてはいかがでしょうか！





～ インターンシップ 21 期 新田朝香の《オルガン知っトク情報》～



イラスト・文：新田朝香

今回は『オルガン・アシスタントの役割』
についてご紹介します

オルガン演奏を支える、もうひとつの「手」

オルガンは、1 人で演奏する場合もありますが、実は1人の演奏者だけでは手が足りない場面が多くあります。ピアニストの横で楽譜の譜めくりをする人がいる光景をご覧になったことがある方も多いかもしれません。オルガニストの横に控えているオルガン・アシスタントも、譜めくりを行います。ただし、オルガンの場合はそれだけではなく、「音色の切り替え」という演奏に欠かせない重要な役割も担っているのです。

どのようなときに音色を変えるのか

オルガンは、ピアノのように強弱を自由に付けるのが難しい楽器です。その代わりに音色を切り替えることで、曲の雰囲気や場面を表現します。

例えば―　「静かな場面では、柔らかく穏やかな音を」「壮大なクライマックスでは、力強く華やかな音を」「曲の途中であっても、まるでオーケストラのように音を重ねていく」 などといった手法があります。

こうした音色の切り替え（ストップの操作等）を、奏者が両手両足で鍵盤を弾きながら行うのは容易なことではありません。そこでアシスタントが、曲の流れを崩さないタイミングを見計らって、奏者がレジストレーションによって決めた音色に切り替え、演奏をより表情豊かにすることができるのです。

求められる力

アシスタントは、わずかな隙や音が鳴っている間に、音楽の流れを乱さず音色を変えていくという、非常に繊細な作業を担当します。またリハーサル時には、奏者が鳴らす音を聴きながら、音色の組み合わせ（レジストレーション）がホールのオルガンに合っているかを確認し、ときには互いに客席でオルガンの音を聴き合い、バランスの確認や意見の交換を行います。オルガンの様式や本番で使用する楽器の特徴を、アシスタントも奏者とともに理解することが必要不可欠なのです。

✷このように、アシスタントには集中力・音楽的感性・チームワークの 3 点が求められます。

オルガン・アシスタントは、ただの「裏方」ではなく、演奏者とともに音楽を作っていく「共演者」なのです。
オルガン演奏をお聴きになるとき、もし奏者の隣でアシスタントが操作をしている姿を見かけたら、その一瞬一瞬を共に作り上げる「共演者」であることを思い出していただけたら嬉しいです。
きっと新たな視点でオルガン演奏をお楽しみいただけると思います！

♫♪♫♪♫♪